

福岡県 本格的な水素社会の幕開けへ

FCV(燃料電池自動車)の普及と水素ステーションの整備を進める



福岡県の6月定例会が6月6日から24日まで開かれました。公明党の代表質問では、水素社会の実現、人口減少、女性の活躍加速化、教育問題などについて知事を質しました。本県の水素ステーション整備の状況と見通しについて、知事は、「2015年、燃料電池自動車（FCV）の市販が開始され、本格的な水素社会の幕開けとなる。国は2015年中に全国で100箇所程度の水素ステーションを整備の予定。本県では国の制度に加え、県単独の補助制度を創設し、福岡、北九州を中心に10箇所程度のステーションの整備を目指す」

と述べた。一方、ステーションの整備や維持管理のコスト削減を図る為、九州大学や水素エネルギー製品研究試験センター（ハイトレック）で規制の見直しに必要な材料分析のデータ取得に取り組んでおり、「これらを活用し、迅速な規制の見直しを国に働きかけている」と答弁しました。（写真：北九州市のエコタウンを視察）

浮体式洋上風力発電施設を視察（長崎県五島市）

公明党県議団は4月、長崎県五島市を訪れ、浮体式洋上風力発電施設を視察しました。

風車を海上に浮かべる浮体式洋上風力発電は、環境省が2010年度から実証事業を開始。風車は同市杵島沖に設置され、本格運用に向けた課題や環境への影響などを調査しています。発電施設の構造や送電方法について話を聞いた後、海上から施設を視察しました。（写真）

原発に依存してきた日本のエネルギーの見直しが言われている中、洋上風力は再生可能エネルギーの次の主力になります。実証実験から実用段階に進むよう、大いに期待するものです。



発行責任者:福岡県議会議員 大塚勝利 福岡市東区みどりが丘1-8-8 TEL:092-691-7731
県議会控室 TEL:092-643-3805

Eメール:ootsuka_katsutoshi@yahoo.co.jp

詳しくは[大塚勝利ブログ](#)で検索

「北九州のポテンシャル活かせ」航空機産業の振興



福岡県議会 6 月定例会の一般質問で大塚勝利議員は、今年 2 月、三菱重工業(株)が北九州空港を MR J (次世代リジョーナルジェット機【写真】) の飛行試験・駐機として活用するとした決定を受けて、今後 20 年で 2 倍の成長が見込まれる航空機産業の誘致と地元企業の参入支援について、知事に質問しました。

知事は、「本県には 24 時間運用可能な北九州空港があり、自動車やロボット産業で培った高い技術力を持つ企業や理工系の優れた人材がある。県としては、今後も

引き続き、三菱重工業をはじめとする航空機関連産業の誘致に積極的に取り組む。また、地元企業の参入可能性が高い分野の検討を行い、航空機関連産業の拠点化を図っていく」と答弁しました。MR J は同社が開発する国産 70-90 席の民間ジェット旅客機。燃料コスト削減など経済性に優れ、将来的にアジアを中心に新しい地域路線の整備が予想される中、現在 325 機受注。来年試験機の初フライトを予定。

教育長 手話技能を重視した教員採用に努める

聴覚特別支援学校の教員配置について

市民相談をもとに聴覚特別支援学校における教員の手話による授業と教員配置について質問しました。教育長は、「教員の免許所有状況や手話技能等の専門性、意欲、適性等を考慮して行ってきた。今後もこの方針を堅持しながらも、手話技能を重視した教員配置に努める。また、教員の手話技能の不足によって、授業を十分に理解できないなどの影響がたとえ短期間であっても生じないように、きめ細かな対応を行っていく。」と答弁しました。

AED 操作法等を学ぶ 福岡県議団

公明党福岡県議団はこのほど、県庁舎内で福岡市消防局の救急救命士らから、応急手当に関する講習を受けました【写真】。

冒頭、同局救急課の田中敬一・消防士長は、日本における心臓突然死が年間約 6 万人に上っている現状を説明。また、「心肺停止に陥った場合、脳は 3～4 分間で血流停止による損傷を受ける」とした上で、「応急手当が早いほど、命が助かる可能性が高くなる」と強調しました。

この後、議員らは 4 班に分かれ、胸骨圧迫や気道の確保、人工呼吸、自動体外式除細動器 (AED) の操作方法など、心肺蘇生法について研さんしました。

通報を受けてから、救急車が現場に到着する所要時間は全国平均で 8・3 分。心停止の場合、居合わせた人が何もしなければ致命的となります。救命現場で更に AED が活用されるよう、推進してまいります。



詳しくは [大塚勝利ブログ](#) で検索